



日本語教室部会の親睦会夏まつりが4年ぶりに開催されました

渡邊裕子（日本語教室部会）

日本語教室部会はコロナ感染対策緩和に伴い、8月26日（土）恒例の「親睦会夏まつり」をサンロード津田沼6階大会議室で開催しました。

「日本の夏の風物詩でもある浴衣を着て、盆踊りを楽しもう!」「外国人学習者、日本語ボランティア、地域住民との交流を深めよう!」をキャッチフレーズに、過去最多の110名、11カ国62名の外国人学習者と家族・友だち、そして48名のボランティアと関係者が参加しました。

浴衣の着付けは予約をすることになっていましたが、その場で「やっぱり浴衣を着たい」という希望者にも、予備とサイズが合う限りボランティアの着付け担当者が対応していました。はじめて浴衣を着た学習者は、大変うれしそうな様子で、家族や友人と写真を撮り合ったり、ボランティアに写真をお願いする姿



市民の中に交じって踊りました



大会議室で本番前の練習

が、あちこちで尽きることなく見受けられました。ある学習者は出身国の両親に「日本で友だちと楽しんでいます」と写真を送ると言っていました。

大会議室で、支援をいただいた吉野会の方たちの指導を受けながら、盆踊りの練習を大きな輪になって行いましたが、みなさんあっという間に上達し、全身で楽しみながら踊る中、浴衣を着た小さいお子さんが、はちきれんばかりにくるくると回って踊る姿がとても微笑ましく、温かい気持ちになりました。練習の間に、サンドイッチやおにぎり等の軽食をバイキング形式でいただきながら、歓談も行いました。

いよいよ本番となり、津田沼地域の方たちが開催する京成津田沼駅前広場での盆踊り会場へ! 提灯がともされ、和太鼓の轟く中、学習者たちは市民の人たちと一緒に汗だくになるまで踊りを満喫していました。

私は、今回初めて担当幹事の一人として、また参加者として参加しましたが、日本の文化の一端に触れることでこんなに喜ばれ、こちらもしゃん気持になって、とても意義のある親睦会夏まつりだと思いました。

初めての日本語ボランティア、 頑張っています

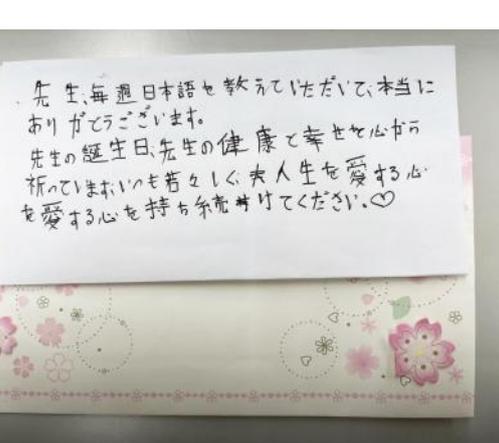
村上敬一（日本語教室部会）

日本語教室部会では、日本で生活している外国人の方に、日本での生活に困らないように、ボランティアで日本語教室を開催しています。コロナ禍に対応しながら、昨年4月から対面式の日本語教室も再開しました。ボランティア養成講座でも昨年は17名の受講生が講座を修了し、今年から活動を始め、試行錯誤しながらも頑張っています。今回は、2組のボランティアと学習者の事例をご紹介します。



チャウさん(右)と永坂さん

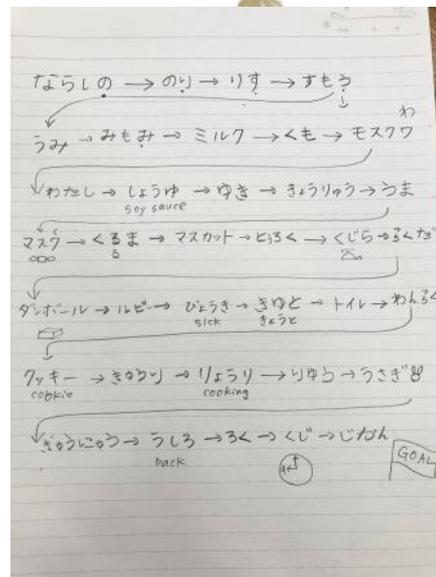
1組目は、今年の2月から学習を開始した、ベトナムから来たチャウさんとボランティアの永坂さんです。チャウさんは、子どもが小学校に入学したのを機に、NIAの日本語教室に申込みました。永坂さんは、楽しく日本語を教えるだけでなく、学校での対応の仕方等も親身に教えてくれ、とても助かっているそうです。先日、永坂さんの誕生日に、感謝の気持ちと自分の日本語の上達を見せようと、



チャウさんの誕生日メッセージ

チャウさんはメッセージを書いて渡しました。永坂さんは、日本語テキストにとらわれず、チャウさんの困り事に対応していくやり方を取ってきましたが、こういう形で感

謝の気持ちを伝えられると、本当にやってきてよかったと、涙が出るくらいうれしかったです。チャウさんが栽培したベトナム野菜をもらって、永坂さんが料理したものを紹介するなど、日本語学習支援だけでなく、草の根異文化交流もしています。



マユミさんと網屋さんの「しりとり」

2組目は、今年の4月から学習を開始した、スリランカから来たマユミさんとボランティアの網屋さんです。マユミさんは、今年の1月に来日したばかりで、先ず日常の会話ができるようになりたいと思い、日本語教室に申込みました。マユミさんは、文字を書くことが得意で、3か月でひらがな、カタカナを完璧に書けるようになりました。網屋さんと日本語の「しりとり」を紙に書いていった時も、どちらが日本人が書いた字かわからないくらいでした。網屋さんは、マユミさんの日本語が上達していくのを見て、とてもうれしく思う一方、知らない人と話すのを恥ずかしがるシャイな面を乗り越えて、学んだ日本語を使って、いろんな人と話をして欲しいとも思っています。日本人の前で恥ずかしがらずに話せるのは網屋さんだけだと言うマユミさんのコメントを、網屋さんは嬉しいような、困ったような複雑な表情で聞いていました。



右から網屋さん、マユミさん、夫のヌワンタカさん

日本語ボランティア研修会が行われました

中村松男（日本語教室部会）

2023年度第1回日本語ボランティア研修会が、7月31日（月）東京大学や習志野市など幅広い教育現場でご活躍の大隅紀子先生をお迎えして、「ゼロベースから初級者までの日本語指導を考える～やさしい日本語を使ったコミュニケーション」というテーマで開催されました。4年ぶりの対面での研修会でした。

「初級の学習者への対応のヒントを得る」、「中級の学習者への支援のヒントを得る」をゴールに事例を挙げて説明していただきました。参加者33名が4人から6人のグループとなり、設定された条件に基づいて学習者とボランティアの会話スクリプトを作り上げる共同作業にも取り組みました。



参加者の作業を見守る大隅先生(右)

参加者は活動年数も教えている学習者のプロフィールも様々ですが、活発な議論を通してスクリプトを作成し、大隅先生よりグループごとに具体的なご指摘とご指導をいただきました。「多様な日本語を尊重して、多様な学習者に向き合い、その自立を支援する」という基本指針を明確に説明され、我々ボランティアへの励ましとなりました。

参加者からは、良かった、わかりやすかった、実践的だったと評価していただきました。また、今後の研修会への要望をいただきましたので、これらを参考に次回の研修会を企画します。皆様のご参加、ご協力をお願いします。

国際交流部会が市民カレッジでSDGs学習ゲーム『Get The Point』を行いました

清水雅弘（日本語教室部会）

8月3日、サンロード津田沼6階大会議室で習志野市市民カレッジのステップアップ編（2年目）の講義が行われました。第1部が損保会社による「SDGsについて」

の座学、第2部に「SDGs学習ゲーム『Get The Point』を体験しよう」でした。受講生は小学生などの孫を持つ世代の方12名でした。私は元市民カレッジの受講生で、今回オブザーバーとして参加しました。

座学の後、4名1組になってゲームが始まりました。NIAの関根洋幸さんによるゲームの説明の後、各テーブルにNIA事務局や国際交流部会のメンバーがアシストにつきました。

1回目は各人の欲しいものを、与えられた資源（消耗資源と再生可能資源）を使ってできるだけ多く獲得（ポイント）し、資源がなくなるまで進めていきます。大体、7周ないし8周で資源が無くなり終了、最高点の方が決まりました。2回目は10周進めて、かつ11周目に進めるように資源を残す（SDGs）という条件で進めていきます。1回目と2回目との目標は大きく違います。すると、各チームのメンバーは、再生可能資源を如何に再生しながら欲しいものを獲得するようになり、各人が相談しながら自分の欲しいものを獲得するようになりました。

10周が終わった時点で、再生可能資源は各チームともにほとんど残っていませんでした。そして、点数を見てみると、1回目のチーム点数よりも2回目の方がどのチームも高かったのです。受講生たちは、資源を再生することでゲームが続き、欲しいものを多く獲得できることに納得していました。

『Get The Point』は小学生から学べるように作られたゲームですが、成人及び年配の方々にも体験してもらって、楽しみながらSDGsを学ぶ機会がもっとあればと思います。地球温暖化や海洋汚染などに対して考えさせられることが多い現在ですが、ゲームを通じてどのように行動すれば持続できるのかを実感できるのではないのでしょうか。

（『Get The Point』のゲームの詳細はスクウェア第141号参照）



チームでゲームに取り組みます

〈新連載〉

吉村会長の Coffee Break

国連職員として世界中を旅してきた吉村和就会長が、日本人の知らない海外事情をウィットとユーモアを交えて綴るコラムです。ぜひお楽しみください。

第1回 チベット・ポタラ宮殿

抜けるような青空、ポタラ宮殿の紅宮と白宮が朝日に輝いています。中国チベット自治区ラサに入ったのが2000年の8月、国連NY本部に勤務していた時の国連ミッションでした。国連がチベットへのミッション「貧困の撲滅と環境問題解決」を中国政府に申し入れてから半年以上経ちましたが、許可が下りませんでした。当時のアナン事務総長が北京政府に抗議し、やっと実現したのです。

降り立ったラサ空港にはチベット自治区のマイクロバスが横付けされ、前後は公安警察車両が取り囲み、国賓並みの扱いです。国連ミッションメンバーは欧米人を中心に8人。私は上司である台湾系中国人のボスと一緒に。ボスから「吉村さん、行動に気をつけなさいね」と言われましたが、その意味が最初に判ったのが、ホテルに着いてからニューヨークへ国際電話を申し込んだ時でした。

30分待たされた後、国連NY本部に繋がった瞬間、受話器の音が急に下がりました。盗聴開始です。夜は当然、尾行が



つきました。私が立ち寄った土産物屋の主人が警察に呼ばれたことを数日後に知りました。一番驚いたのは、マイクロバスの運転手のことでした。5000メートルの峠を越えて、ある少数民族の村に行った時、途中の休憩で立ち寄る村落で最も歓迎されたのが、この運転手でした。なぜか？彼は欧米で教育を受けた地元出身の共産党の超エリート幹部でした。つまり運転しながら我々の会話（英語）をすべて聞いていたのです。

世界遺産のポタラ宮殿に着きました。1642年にダライ・ラマ5世が建造、チベット仏教の聖地です。

ポタラ宮殿（海拔3800メートル）のトイレは凄かったです。ダライ・ラマが使っていた和式風トイレは、覗くと300メートル下の崖が見えます。つまり糞尿が落下していく間に空中に霧散するのです。仮に断崖絶壁にこびり付いても、すぐに乾燥して草木の栄養源となります。それが理由で300年間使用しても、詰まりも臭いもない極めて清潔なトイレなのでした。

チベットの報道に接する度に、鮮明なる記憶が呼び戻される今日この頃です。



チベット・ポタラ宮殿。筆者撮影

市民まつり「習志野きらっと2023」に参加しよう！

日時：2023年10月8日（日）9時～17時

会場：習志野市庁舎敷地内、市役所通り

NIAのブースは市庁舎のすぐ東側です。協会や各部会のPR、クイズも行います。クイズに答えると景品がもらえるかも？！ぜひ遊びにきてください。

もちろんNIAはサンバパレードにも参加します！民族衣装での参加も大歓迎です。パレード前に軽食を食べてダンスの練習をしますので、パレードに参加する人は事前に事務局へ申し込んでください。

詳細は同封のチラシをご覧ください。

2023年度バスツアーの参加者を募集します

日にち：2023年11月9日（木）

行き先：埼玉県長瀨（ライン下り）・小江戸川越散策

参加費：4,500円（NIA会員）

募集開始：10月16日（月）から

詳細は同封のチラシをご覧ください。



詳しい記事はホームページをご覧ください

【発行】

習志野市国際交流協会

千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード津田沼6F

〒275-0016

Tel&Fax 047-452-2650

<http://www.nia08.com/>

nia@jcom.zaq.ne.jp

【広報から】

- ◆ メールマガジンに読者登録をスクウェアの電子版「メール・スクウェア」を配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレス niasquare@jcom.zaq.ne.jp まで。
- ◆ 原稿をお寄せください
イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局または niasquare@jcom.zaq.ne.jp へ。
- ◆ スクウェア編集部員を募集しています
一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。